

|     |             |     |                        |    |    |     |   |
|-----|-------------|-----|------------------------|----|----|-----|---|
| 科目名 | 現代ファイナンス論特講 | 担当者 | カトウ<br>加藤<br>コウジ<br>孝治 | 期間 | 通年 | 単位数 | 4 |
|-----|-------------|-----|------------------------|----|----|-----|---|

【科目概要】

|         |  |     |  |
|---------|--|-----|--|
| 目的      | <p>多くの企業が株式市場に上場し、自社の株価を上げ企業価値を高めることを目指している。企業業績を上げることが重要であることはいまでもないが、投資家からより良く評価してもらうために、ファイナンス論のテクニックを駆使している企業も多い。テレビや新聞などを見るときにも、ファイナンス論の知識を持っていることで、企業行動をより深く理解できるようになるだろう。</p> <p>現代ファイナンス論を履修し、現代社会の中で起こっている企業行動を、より深い（財務的な）切り口で見ることができるようになることを講義の目的とする。</p>                                 |     |  |
| 到達目標    | <p>ファイナンス理論はビジネスにおける共通言語の一つであり、幅広く基本的な考え方を理解することが出発点である。専門用語が多く、それを知っただけでマスターできたように思ってしまうが、大事なことは、社会の中でどのように活用されているかをイメージできることにある。理論を修得するだけでなく、具体的なビジネスシーンの中で使われている状況が具体的に浮かべられるように、使いこなせるようになることが到達目標である。</p>   |     |  |
| 学修方法    | <p>レポート課題を解くカギは、教材の中にそのままあるわけではない。教材を理解せずに答えを導き出すことはできないが、その内容を理解し、その知識・考え方にに基づき、自ら対象事例、対象企業を探して考えるところまで取り組んでほしい。</p> <p>調べるためには、教材以外にも関連する書籍を探し、新聞記事・雑誌記事のほか、企業の公表資料を見る必要がある。関係のありそうな雑誌記事／インターネット記事などを探索するほかにも、論文、総合研究所のレポートなど幅広い情報にあたるのが望ましい。いろいろな方法にトライし、いろいろな材料を比較しながら、自分の考えを提示できるようになって欲しい。</p> |     |  |
| スケジュール  | <p>①提出期限までにレポート提出を活用して、考え方を確認・交換する必要がある。最低でも前後期ともに、課題提出期限1か月前までには初回提出をすること。</p> <p>②受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからず、早めの時期に課題提出できないこともある。その場合には、効率的に学習に取り組むために、レポート作成に必要な質問をメールあるいは添削システムを使って連絡することも受け付ける。レポート作成前に、課題取組方針のすり合わせを行うことは望ましいことである。</p>  |     |  |
| 成績評価    | 種別   | 割合  | 評価基準   |
|         | レポート   | 80% | ①教材の内容を修得し、その考えを踏まえて解答されているか<br>②自分の独自の考えを、相手に伝わるように解答できているか<br>③教材以外の資料を活用して解答しているか（加点項目） |
|         | 平常評価   | 20% | ①最終提出までに複数回のレポート交換ができているか<br>②途中稿提出期限（最終提出1か月前）が守れているか                                     |
| 履修者への要望 | <p>グローバル経営（MBA）部門のコア5科目の一つであり、他の科目（グローバル経営戦略論特講、アカウントینگ論特講、マーケティング論特講、人材マネジメント論特講）と合わせて履修することが望ましい。</p>   |     |  |

【レポート課題】

| 基本教材 1   |  |
|----------|--|
| 教材の概要    | <p>著者名： グロービス経営大学院<br/>           教材名： 『[新版]グロービスMBAファイナンス』（ダイヤモンド社，2009年）<br/>           ISBN:978-4-47-800876-8 2,800円+税</p> <p>前期はファイナンス理論の基本的なフレームワークの整理を目指す。ファイナンス理論はビジネスシーンだけでなく新聞などを読むに当たっても意外と多くの場面で使われているが、その一方で誤った理解に基づき使われているケースも多い。教材を使い正しく基本的な概念を習得する。</p> |
| 参考図書     | <p>小田切宏之『企業経済学 第2版』（東洋経済新報社，2010年）<br/>           ISBN:978-4-49-281301-0 3,200円+税<br/>           ロバート・C・ヒギンズ（グロービス・マネジメント・インスティテュート訳）<br/>           『[新版]ファイナンシャル・マネジメント』（ダイヤモンド社，2002年）<br/>           ISBN:978-4-47-847059-6 4,400円+税</p>                           |
| 履修上のポイント | <p>教材はファイナンス論の基礎の修得を狙った。課題に対しては、基礎的な考えを修得したうえで、個別企業がとっている財務行動に興味を持てるようになってほしい。<br/>           もう一段の理解を深めたい場合に参考図書を活用する。『企業経済学』はファイナンスの教科書ではないが、財務理論を企業組織の中で具体的に活用する方法を考える上で役に立つ。</p>   |
| レポート課題 1 | <p>事業の収益性を判断するために注目する必要があるキャッシュフローについて、その概念を整理しなさい。<br/> <b>留意点：</b>教材（1）の第2章を参考にしながら、ファイナンス論を取り組むうえでの出発点となるキャッシュフローが何を示すのか、確認してほしい。</p>   |
| レポート課題 2 | <p>事業を行ううえではリスクとリターンを評価することが求められる。ファイナンス理論におけるリスクとリターンの関係についてまとめなさい。<br/> <b>留意点：</b>教材（1）の第5章を参考にしながら、リスク・リターンの概念を確認する。その際に、個別株式のリスク・リターン評価の手法であるCAPMについての理解にも取り組んでほしい。</p>   |

| 基本教材 2   |   |
|----------|---|
| 教材の概要    | <p>(1) 著者名： グロービス経営大学院<br/>           教材名： 『[新版]グロービスMBAファイナンス』（ダイヤモンド社，2009年）<br/>           ISBN:978-4-47-800876-8 2,800円+税</p> <p>(2) 著者名： 手島直樹<br/>           教材名： 『まだ「ファイナンス理論」を使いますか?』（日本経済新聞出版社，2012年）<br/>           ISBN:978-4-53-231829-1 1,800円+税</p> <p>後期はファイナンス理論の基本的なフレームワークの整理を目指す。ファイナンス理論はビジネスシーンだけでなく新聞などを読むに当たっても意外と多くの場面で使われているが、その一方で誤った理解に基づき使われているケースも多い。上期に引き続き、教材（1）を使い基本的な概念を習得する。教材（2）は常識に囚われない「正しい使い方」が示される。</p> |
| 参考図書     | <p>砂川伸幸，川北英隆，杉浦秀徳，佐藤淑子『経営戦略とコーポレートファイナンス』（日本経済新聞出版社，2013年）ISBN:978-4-53-213441-9 3,200円+税 【紀伊國屋在庫僅少】<br/>           マッキンゼー・アンド・カンパニー/ティム・コラー他（本田桂子/鈴木一功訳）<br/>           『企業価値経営—コーポレート・ファイナンスの4つの原則』（ダイヤモンド社，2012年）<br/>           ISBN:978-4-47-801798-2 2,400円+税</p>   |
| 履修上のポイント | <p>「ファイナンス論」履修の目的は、実際の経済行動・企業行動の中で利用されている状態をイメージできることにある。教材は具体的な事例と理論との橋渡しをしている。各自、一步踏み込んだレポート作成に取り組んでほしい。参考図書は、具体的にファイナンス論を活用する手法を学びたい学生のために示した。</p>   |
| レポート課題 1 | <p>会社全体の経済的価値を示す「企業価値」についてその考え方を確認したうえで、株価の理論値の計算の方法について述べなさい。<br/> <b>留意点：</b>教材（1）の第8章で示される考え方、計算方法について理解してほしい。また、その企業価値がM&amp;Aを考えるうえで重要であり、買収戦略の成功・失敗の評価を分けることとなる点も理解してほしい。</p>   |
| レポート課題 2 | <p>教材（2）において筆者が提示している「理論と現実のギャップ」あるいは「誤解」に関して整理し、その誤解について、あなたはどのように考えるかを論述しなさい。<br/> <b>留意点：</b>必ずしも筆者と同じ意見である必要はない。むしろ、批判的な立場で考えを示すことが望ましいこともあるので、よく考えて取り組んでほしい。</p>   |